

第9回「関西建築家新人賞」審査講評

審査員長 / 大谷 弘明 Hiroaki Otani

総評

この賞の審査にはこれまで8年間にわたり JIA 関西建築家大賞の受賞者が代々、審査員長を務めてきたと聞く。今年はその受賞者全員が審査を務め終えたために私のところにお鉢がまわってきた。この賞は新人賞であるからその目的とするところは、選ばれた人がその後大きく飛躍するための動機を与えること、にある。つまり、建築を審査しつつもその建築だけを評価するのではなく、その建築家の「将来性」を見抜くことにあると考える。当然、この賞のこれまでの栄えある伝統を高めることに留意し厳選を心がけなくてはならない。その建築は、周辺との調和、社会に開かれた姿勢がどのくらいあるか、をまず見ようとした。敷地の内側の理屈や造形の見栄えによらず、できるだけ専門家でなく普通の人目線で考えるようにした。書類審査においては14作を入念に調べ、5作を現地審査した。以下がその5作への見解である。

Tubo.V 北脇一郎

安土山と琵琶湖に向けて開くという目的で曲げられたチューブ形状が際立った造形となっている皮膚科診療医院と住宅。真鍮板を葺いたこのチューブが景観に不思議に馴染み、落ち着いている。交通量の多い公道に面する側を閉じた形状としている。真鍮自体は経年変化が期待できるのに、ほかにも様々の材料を多く取り合わせた結果、外装に早くも劣化が見られた。北脇さんの闊達な造形への意識は買いたが、一つの建築に盛り込みすぎた。削ぎ落とすこと、断念することへの勇気を養ってください。

ヤンマーミュージアム 東本光尚

組織事務所らしく万全の性能を確保。大きな水盤の上に掛かる水平大屋根とピオトープのある屋上。太陽電池に屋上緑化など要素満載。長浜の黒塚に倣ったという杉小幅板本実型枠 RC 打放しによる美しい外壁。でも、せっかくの大屋根の下をなぜ全面水面にして使えなくしたり、近自然を屋上の手摺の内に閉じ込めるのだろう。楽しい展示内容（子供達の憧れの的であるヤンマー製重機を実際に操縦できる）に比べて、建築はなぜか物静かである。東本さんはもっとすごいことが出来るはずです。

木津川の保育園 深江康之

最近造成された新興住宅地に建つ保育園。敷地を柵で区切らず、口の字型配置とし中庭側を全面開放する平屋の図式で解いている。周囲の分譲戸建住宅に影響しないように低く伏せ込んで建てた結果、中庭からは周りの二階建てがあからさまに見えてしまったという皮肉。植樹で囲むなどの方法はいろいろあったはず。0歳から5歳までの子供達を同じ広間のシステムで並列に扱うのにも管理側の目線が際立ってしまい無理を感じた。深江さんの理知的な本当の実力は、次回作でこそ見せてください。

生駒の家 松田修平

周囲を家々で囲まれた敷地に建つ自邸。中庭でもアトリウムでも通り庭でもない、中間領域をまんやかに備えた住宅。4つの居室群で囲みつつ、コーナー建具を開け放すともう一つの矩形が浮かび上がるという仕組み。ほっとする住み良さ、多様な視線の奥行き、天空光の取り入れ方の妙で、子供さんが情操を育むにふさわしい場が生まれている。惜しむらくは、理念と違って木造架構は一棟で解いていること。ぶっきらぼうな外観も周囲の住宅とは疎遠な関係。この家に住んだ松田さんには、次の仕事では、もっとよいアイデアが湧き出すはずです。

六甲道の家 榊原節子

駅近くの幹線道路沿いに建つ狭小住宅。間口は3.15メートルでこの赤い壁もきっと見過ごしてしまう。スキップフロアで吹抜けを介し室内全体を一体とするのは常套手段。最近第三子が生まれ、五人家族が楽しげに住む。見どころは通りに対する開き方にあり、正面が歩道同面の全面ガラスで、バス停や銀行のATMが間近に見える。あたかもまちなかの喫茶店のような振る舞い。それに対して上階では縦長に一カ所だけトップライトに連続する形で開口が取られている。街とつながった住まい方を選択した建築主の考えを、ストレートに反映した設計で、何でもないようで面白く、肩肘張らない素直な設計に好感。これが榊原さんらしさなのだろう。でも本当の実力はこれぐらいではないでしょう。ちょっとだけ差し引いて関西建築家新人賞 / 審査員奨励賞を授与したいとおもいます。

審査員 / 岸下 真理 Shinri Kishishita

審査員長のご指名により審査員という大役を務めさせていただいた訳だが、年齢的には同世代の建築家の思想や空間に直接触れることができ、審査と言いながら多に勉強をさせていただいた。お忙しい中、現地審査にお立会いいただいたそれぞれのクライアントにはこの場をお借りして御礼申し上げたい。

「Tubo.V」(北脇一郎)はダイナミックな外観とそれを形成する素材が魅力的な建築であった。時を重ねた黄銅の外壁は美しく、診療所という機能を考えれば周辺に対するアイコンとしては十分に成功していると思われたが、設計者の言う「大きな筒状の空間が包み込む繋がりや連続性」は感じ難く、内部空間と外観との整合性が少々気になった。

「ヤンマーミュージアム」(東本光尚)は優れた環境配慮型建築であり、またクライアント企業の地元への貢献が現前した建築であった。コンセプトの形象化をはじめ、素材の使い方やディテールの取扱い等は新人賞のレベルを大きく超えるものであったが、プログラムにもう一步踏み込んででも内部展示空間の質の向上を目指してもらいたかった。

「木津川の保育園」(深江康之)は新興住宅地の開発に伴い周辺の住宅に先行して建設された中庭型の建築であった。明快なプランや統一された素材等、全体がシンプルな空間を志向しており、その結果として管理の容易さや安全性の確保を実現していることが十分に理解できた。ただ、それらの視線が基本的には大人のものばかりであったことに少し疑問を感じた。

「生駒の家」(松田修平)は当初は中庭を検討していたという全面トップライトの家中庭と呼ばれる空間が中心を形作る住宅であった。設計者の自邸ということで意欲的な空間構成が試みられており、室内のレベル差を有効利用した多様な関係性が生まれる可能性も感じたが、家中庭はやはり内部空間であり、外部の持つある種の豊かさを排除してしまった感が拭い切れなかった。

「六甲道の家」(榊原節子)は一見すると店舗と見紛う都心の住宅であった。狭小地における空間の構成方法としては定番と言っても過言ではないスキップフロア形式のワンルーム空間であるが、恵まれているとは決して言えないその周辺環境を積極的に受け止めながらその場所に棲むことを真剣に想うクライアントと、その想いを空間化することに真摯に取り組んだ建築家の姿勢には好感を持った。

建築に関する賞はひとつの価値基準ではあるが絶対的な価値を示すものでは決してない。建築家は賞の当落に一喜一憂することなく、真摯に建築に取り組まなければならない。と、いつも自分に言い聞かせている。

審査員 / 長濱 伸貴 Nobutaka Nagahama

現地審査はいつもドキドキする。書類上で妄想した作品の「生きている姿」を直視できるという期待感と妄想への裏切り(良い意味での)という現実感が入り混ざった感覚を覚えるからである。今回の現地審査の対象となった5作品については、書類審査の時点から、作り手(建築家)、使い手(施主や利用者)、受け手(町や住民)の計画・設計段階での関係性や竣工後のそれらの有り様が、共通して気になっていた作品であった。とりわけ、僕はランドスケープアーキテクトであることから、作り手と使い手の対話が紡ぎ出した結果としての「建築」と、それを寡黙に内包する受け手としての「まちの風景」との相互作用という視点が、特に気になっていた。

受賞作品である「六甲道の家」は、街中の狭小住宅におけるビルディングタイプとしては取り立てて目新しさはないものの、慎重な窓や開口部の取り方(位置やプロポーション)によって、暮らしぶりや街の活動とがインタラクティブになる状況を生み出している点は秀逸である。また、施主夫妻が地元大学の出身であり、その街を知り尽くしているという余裕も手伝っていると思われるが、幹線道路沿いの住宅であるにもかかわらず、その内部空間に足を踏み入れたとたん、下町長屋に身をおいた感じがしたことには好感が持てた。作り手が、使い手と受け手の声に真摯に耳を傾けながら、それらを「建築」という針と糸を使って丁寧に縫合した成果がそうさせていると考える。

「Tubo.V」は、穏やかな町の風景の中に、ダイナミックな建築を挿入した挑戦的な作品である。そのマッシブな形態のなかに住居と診療所を巧みに納めていることは評価できる。ただ、建築ボリュームの構成と周辺の景観(特に山並み景観)との間に積極的な相互作用があまり感じられなかった点が少し残念であった。

「木津川の保育園」は、一筆書きの回廊型大空間を提供することによって、使い手(園児たちと教職員)の活用の多様性を享受しようとした意欲作である。その結果が、周囲の環境との断絶がやや強過ぎたように感じた。建築ファサードのわずかな仕掛けや街と建築との中間領域(外構部分)のあり方などにもう少し工夫の余地があったのではないかと考える。

「生駒の家」は、4つの建築ボリュームを近接させることによって、室内空間に街路空間を生み出すというユニークな作品である。その街路空間が庭の領域まではみ出し、街とつながっている有り様は、熟成した住宅地における後発の住宅デザインの一つの可能性を提示しているように感じられた。また、室内空間においても、そのヴォイド空間を介して、下町エリアの窓辺空間を持つ隣家(ここでは隣室)との親近感が再現されており、家族間のコミュニケーションにとっての程よい距離感も保たれていると推察できる。